

令和5年5月18日

昭和四日市石油(株) 環境安全課長殿、操油課長殿
出光興産(株) 安全品質管理課殿
陸運安全協力会 幹事各位

昭和四日市石油(株)四日市製油所
陸運安全協力会
(司会 ニヤクコーポレーション)



5月度 幹事会 (会議録)

1. 日時 令和5年5月18日(木) 9:00~
2. 場所 昭和四日市石油(株) 塩浜クラブ2階
3. 出席者 16名(敬称略)
昭四 : 森重環境安全・品質保証部長、渡辺環境安全課長
西川操油課長、南川操油課長代理、木場陸上操油係長、平野安全管理推進者
出光 : 欠席
幹事・事務局(敬称略)
昭永工業(岩野、河合、伊藤)、日本通運(森) 暁興産(金森)
上野輸送(河野) ニヤクコーポレーション(平野)、池畑運送(佐藤)
日本石油輸送(今井)、昭豊運輸(欠席)
事務局(新堂)
4. 議事
 - 4.1 灯油・軽油積込時のガスパーズ時間変更の件
西川課長、木場係長よりパーズ時間の変更について以下の説明がありました。
 - (1) 4月25日付で【灯油・軽油積込時のガスパーズについて(周知徹底)及び、スイッチローディングの危険性について】の文書を送付しています。4月22日(土)5時44分にP-21にて軽油積込時にハッチ内で異音が発生し、ローディングアームが1m程浮き上がる事象が発生しました。幸い乗務員さんにけがはなく、設備の損傷もありませんでしたが、重大事故に至る危険性を認識して原因の究明と再発防止に取り組んでいます。
 - (2) 積込前の空ハッチ内の可燃性ガス濃度を爆発下限界(1.4vol%)以下にするため、パーズ時間を従来の2倍にする対応を5月8日から実施しています。合わせて着火源となる静電気発生防止として車両アースの状況を調査しています。
 - (3) 2006年、2007年に積込前のハッチガス濃度を調査したときは、パーズ前のガス濃度は10vol%程度で、2KLハッチで1分、4KLハッチで2分ガスパーズを行えば、爆発下限界(1.4vol%)以下の濃度が確保されていました。それ以降は、確認していませんでした。
 - (4) 今回のトラブルで現状を調査したところ、パーズ前のガス濃度は平均で20vol%程度で、最大値は55vol%でした。従来のパーズ時間では、爆発下限界以下の濃度が確保されていないことが判明しました。現状空車のガス濃度が上昇してきたのは、揮発性有機化合物(VOC)対策のためSSで荷下ろし時に地下タンクのHCガスをローリーハッチに戻しているためと考えられる。
 - (5) 実車でパーズ試験するとパーズ時間を2倍にすると、爆発下限界以下の濃度が確保されることが分かりました。ただし、30秒以内に積込を開始しないと再びガス濃度が増加することも判明しました。
 - (6) 今回の事象でアースの重要性を再認識しました。実車を見るとペンキで塗装された上にアースラグが取付けられていて不完全と思われる取付け方法も見られます。また、ヘッド側に取り付けられているアースラグとタンク(トレーラー)が確実に導通しているかもチェックする必要があります。今後実車のアースラグとタンクが導通しているかをテ

スターで実測することも計画しています。1年に一回車両登録してもらう時には、アースの導通確認を実施することとします。

- (7) 現状新車のタンクには、マグネット式アースホルダーを取付ける平板（ステンレス製）が標準で取付けられているタンクが多く、接続もしっかりできるので、今後マグネット式に変更することを計画していきます。（納期と予算措置は今後の検討）

以上の説明と討議を踏まえて、当面の対策として、アースラグ取付け方法の点検、ヘッドに設置されているアース端子とタンクとの導通確認、平型アースのタンク側への移設（可能な場合）等を陸運安全協力会より会員に周知依頼することになった。

4.2 ローディングアーム油種間違いの現状

【ローディングアーム油種間違い（以下、油種間違いと記載する）】についてこれまでの推移と今後の対応について会長より説明があった。

- (1) 月間の発生件数は2021年4月からペナルティ発動後、件数は4件から7件で推移していた。2022年3月から5月【油種間違い防止3点確認強調月間】で3点確認の状況をパトロールで集中的に確認・是正を指示する活動を展開し顕著な減少が確認された。2022年6月ペナルティ緩和後、年末までは現状維持の件数だったが、2023年1月以降件数が増加に転じている。

(2) 今後の取組みについて

- ① 油種間違い防止についての決定的な手法は見当たらないが、2022年2月から5月に実施した【油種間違い防止強調月間の活動】により発生件数が減少した実績より、3点確認を形骸化することなく励行し続けることが最も有効な防止策である
- ② 各社運行管理者は、油種間違いの現状を本紙データに基づき正確に把握し、3点確認の有効性を全乗務員に正確に説明して頂きたい。
- ③ 運行管理者はパトロールにより自社乗務員の【3点確認】の励行状況を頻繁に確認して頂きたい。
- ④ 操油課殿より
陸運から要望のあった、積込パネルでの油種表示は5月末には新しい表示（RG、HG、灯油、軽油）になります。

4.3 第30回定期総会（意見交換会）反省事項

総会開催は4年ぶりだったが、大きなトラブルなく総会が行えたが、意見交換会は事前のシナリオ通りに実行できなかった。

- (1) 意見交換会は従来、製油所長が全テーブルを回る前にお開きになったので、次回はタイムキーパー役がサポートするのが良いとの意見があった。
- (2) シナリオは、事前によく読んで当日に大枠で間違いなく進行してほしい旨会長より要望があった。

4.4 連絡事項

(1) 操油課より（木場係長）

- (ア) 7月から8月頃、クマリンの注入設備で注入量を確実にするために流量計の二重化の工事があります。灯油の繁忙期までには工事完了し影響がない予定です。
- (イ) オフサイト配管で検査結果により工事が必要な配管について対応工事が予定されます。出荷に影響が出ない様に工夫して工事を実施する予定です。

- (ウ) セキュリティー強化の第二次工事が承認されましたのでローリー門北側資材エリア付近とセンター入り口付近と出口の道線上にバーが設置されます。工事行程の詳細は未決定です。
- (2) 環境安全課より（平野安全管理推進者）
春のマイナー定期修繕が始まります。従来は重油直接脱硫装置と水素製造装置が停止となりますが、今回はCD-3が熱交換器洗浄のため短期間停止します。メジャー定期修理と異なり、通常時間帯で工事は行いますが、入構出構で西門を通過する車両が増えます。交通安全にご注意願います。
- (3) 事業結果報告
事務局より、【4月、5月パトロール・事業結果報告】がありました。
- (4) 【指差呼称】の呼び方
『ユビサシコショウ』、『ユビサシカンコ』などの呼び方がありますが、中央労働災害防止協会では、『ユビサシコショウ』を採用しているようです。
【指差呼称】と記載して『ユビサシコショウ』と読むことで統一しましょう。

以上